

助けてくれた友達

鳥飼小学校 五年

私には、とても元気で、いつも私のことを支えてくれるすてきな友達があります。私は、その友達のことを信らいしています。なぜなら、私が一番苦しかった時に、その友達が助けてくれたからです。その時に友達にしてもらったことが本当にうれしく、今思い出してもとてもあたたかい気持ちになります。それくらい、私にとって心に残っています。

四年生の六月、私は手話に興味を持ち、学校でも練習をしていました。手話には、中指を立てながら手を上下に動かす「兄弟」という意味の手話があります。ある日、その手話を練習している時に、たまたま目の前をクラスメイトが通りかかりました。その時、私がちょうど中指を立てていたので、クラスメイトに「Aさんが自分に向けて中指を立てている」とご解されてしまいました。私は、すぐに理由を説明しましたが信じてもらえず、それからは、クラスメイ

トの近くを通るたびに中指を立てられ、笑われるようになりました。最初は気にしないようにしていましたが、何回も続くうちにだんだんと苦しくなってきました。しかし私は、そのことをだれにも相談することができませんでした。どうすればいいか分からず、苦しい時間が続きました。そんな時に気づいてくれたのが、私の友達でした。友達は、私の様子を見て「Aさん、大丈夫？」と声をかけてくれました。たった一言でしたが、私にとってはとてもあたたかく、心強く、安心できる言葉でした。私は友達にすべて話しました。

それからは、友達がいつも味方でいてくれました。中指を立てられた時には、代わりにおこってくれました。そのせいで友達自身がきずつけられそうになった時も、「別にいいよ」とかばってくれました。そのすがたは、とてもかっこよかったです。そのような友達のおかげで中指を立てられることはなくなりました。

この出来事があったことで、私は、いやなことを言われたりされたりしても、だれかに相談

したり、自分の気持ちを言ったりすることができるようになりました。優しく心強い友達がいて安心できること、その友達を信じられることで、自分自身も安心して強くなれるのだと感じました。

また、前の私のように、だれにも相談できずに苦しんでいる友達もいると思います。その時は見て見ぬふりをせず、私の友達がしてくれたように「大丈夫だよ」と声をかけ、助けていきたいです。そして、友達が私にくれた優しさや強さを、今度は私が次の人につないでいきたいです。